



北っ子

子どもたちを笑顔で迎え 笑顔にさせ
家庭・地域に帰します！

◇教育目標：人・社会・未来へつなぐ Well-being

◇重点目標：学ぶ楽しさを見つけ、よりよい考えを表現できる子の育成

全道一斉防災訓練「北海道シェイクアウト」

校長 大野 昌 広

第2学期がスタートして約3週間が過ぎました。夏の間に大きく成長した北っ子たちが、この2学期からいろいろなことに挑戦し、新しい発見をするのを楽しみにしています。私たち教職員も、北っ子たちの好奇心を大切に、実り多い秋となるようサポートしてまいります。

□シェイクアウト訓練とは？

地震が発生した際、その場で即座に身を守るための防災訓練「シェイクアウト訓練」をご存じでしょうか。この訓練はアメリカ・南カリフォルニア州で考案されたもので、「Shake Out（地震の揺れを振り払え）」という言葉に由来しています。あらかじめ避難場所や内容が決められ、リーダーの指示に従って行動する従来の避難訓練とは異なり、「今、自分がいる場所」で参加者それぞれが即座に判断して行動することを重視した、より日常に近い実践的な訓練です。訓練の核心は、わずか数分で実施できる「3つの初期動作」を身につけることです。

- ◆まず低く（DROP!）：揺れを感じたら、まずは姿勢を低くして倒れないようにします。
- ◆頭を守り（COVER!）：机やテーブルの下に入り、頭部を落下物から守ります。屋外にいる場合は、カバンや手で頭を覆う工夫をします。
- ◆動かない（HOLD ON!）：揺れが収まるまでその位置を維持し、無理に移動せず安全を確保します。

シェイクアウト訓練は学校や職場、家庭など、どこでも手軽に取り入れられるのが魅力です。しかし、やり方を誤ると「ただしがむだけ」「参加しただけ」で終わってしまう危険もあります。形だけに終わらず、いざという時に体が自然と動くよう、学校でも繰り返し指導してまいります。

□休み時間に地震発生・停電を想定した訓練

9月1日、本校でも防災の日に合わせてシェイクアウト訓練を実施いたしました。今回は「子どもたちが校内のさまざまな場所で過ごす休み時間」かつ「停電により校内放送が途絶えた」という、より実践的な状況を想定して行いました。緊急地震速報のアラート音とともに、その場での「安全確保の3つの行動（DROP!・COVER!・HOLD ON!）」を校内放送で伝えた直後に電源喪失（停電）。揺れが収まったと判断した約1分後、教務主任が大声でグラウンドへの避難指示を出しました。指示を受けた子どもたちは、それぞれの場所から落ち着いてグラウンドへと避難を始め、学年・学級ごとに速やかに整列し、人員の点呼を完了させることができました。想定外の事態が生じやすい災害時には、放送機器に頼らず「一人一人が状況に応じて判断して行動すること」が命を守るカギとなります。防災の基本は「自分の命は自分で守ること」。今回の訓練では、自分の力で考えて素早く行動できた子どもたちの成長を深く実感いたしました。

□子どもの生命を守るための教職員一人一人の役割

本校の教職員は、自身の名前を記した名札カードホルダーを常時着用しております。2学期からは、このホルダーの裏面に「災害時の教職員の役割」と「心肺蘇生の手順」を記載したカードを収納いたしました。さらに、教職員一人一人に防災用ホイッスルを配布し、ホルダーなどに常時装着することで、自然災害や不審者遭遇といった万が一の緊急事態に素早く対応できるよう準備を整えております。こうしたカードやホイッスルの所持は、単なるツールの導入にとどまりません。「いざという時に、自分がどのような行動をとり、子どもたちの命をどう守るか」という意識を、教職員一人一人が常に持ち続けるための大切な取り組みです。学校における防災・防犯の要（かなめ）は、組織としての迅速な初期対応と、現場にいる教職員の咄嗟（とっさ）の判断力にあります。緊急時には、マニュアルを見る時間すらないかもしれません。だからこそ、日頃から胸元に役割や手順を携え、自らの責務を強く意識しておくことが、迅速で適切な行動につながるかと考えております。



災害時における緊急対応	
あなたは（自衛責任者）	本部長
～倒れている人を発見したら～	
1 周囲の安全確認	
2 反応の確認（肩を軽くたたきながら呼びかける）	
3 反応のない場合、大声で助けを求め、119番通報・AEDの手配	
4 呼吸の確認 胸部と腹部の動きを見る	
呼吸なし	
5 胸骨圧迫から開始 胸骨圧迫30回（人工呼吸2回）※AEDのパッドを貼るまで	
6 AED使用 ①電源ON ②電極パッドを貼る ③ショックボタンを押す ④心肺蘇生再開	
ネームホルダーの裏に収納	

子どもたちの安全と命を守るため、教職員が一丸となって危機管理体制の強化に努めてまいります。保護者の皆様、地域の皆様におかれましても、日頃の登下校の見守りなど、温かいご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2学期のスタート

8月25日（火）、始業式がありました。校長先生からは、「ハイ（返事） ニコ（笑顔） ピン（姿勢）」などの合い言葉についてのお話がありました。

ご家庭でも「今日もハイ・ニコ・ピンで頑張ろうね」と声をかけていただけると幸いです。

この日は、北海道新聞の取材もあり、翌日の朝刊に、子ども達の校歌を歌う姿が掲載されました。



安全・安心の指導

9月4日（金）、交通安全教室 ダミー実験がありました。中学年を対象に、グラウンドで、ダミー（人形）と車がぶつかる様子を見せることで、実感をもちながら、交通ルールを守る姿勢を身に付ける学習です。

ただ、この日は、あいにくの雨天のため、グラウンドでの実験は見送りましたが、体育館にて、大型バスの模型を使い、車の死角やシートベルト大切さなどについて実感をともなった学びを行うことができました。



5年生 日本の魅力を考える



5年生は、総合的な学習の時間の学習で、「日本の魅力を探ろう」をテーマに学習を進めています。その中で、外国の方が感じる日本の魅力について聞く学習があり、9月8日（火）、旭川市総合政策部都市交流課の方々（韓国・アメリカの先生）をお招きし、海外の視点から見た、日本の文化について直接お話を伺いました。

「私の国には道徳という学習はないんですよ」（アメリカ）「くつを並べる文化が素晴らしいと思いました」「ゴミがとても少ないですね」（韓国）「お祭りが多いよね」（アメリカ・韓国）など、子ども達は、自分達の日常にある魅力に気づき、目を輝かせていました。

今後は、「未来に残していくために自分達ができること」を考える学習へと学びを広げていきます。

教育実習が始まっています



2学期、教育実習が始まり、3名の実習生を迎えています。3名は、教育大学旭川校の3年生で、1年生、3年生、5年生の学級に入りながら、少しずつ、授業を行ったり、また、児童への接し方を学んだりしながら、日々、経験を積んでいます。

朝に玄関に立って児童へ挨拶をしたり、休み時間は一緒に遊んで汗をかくたり、とても意欲的な実習生です。

未来の先生を、教職員一同でしっかりと支援してまいります。実習期間は、9月29日までです。